

2025 年 3 月期決算説明会における主な質疑応答

2025 年 5 月 15 日、東京

Q1：2026 年 3 月期の国内売上高が 3.1%増収の見通しの背景を教えてください。

A1：国内では、販売価格引上げなど価格政策の見直しを継続するほか、IT システムの売上回復を見込んでいる。物価や賃金の上昇により医療機関の経営が悪化する中、医療の質向上と効率化に寄与する医療機器や IT システムの設備投資は優先順位を付けて進められている。前下期に上市した中小病院向けクリニカルアシスタントサービスやミドルローエンドベッドサイドモニタの新機種など、設備投資意欲の高い中小病院を中心に販促活動を強化する。

Q2：2026 年 3 月期の北米売上高が、為替とアドテック社連結の影響を除く実質ベースで 2 桁成長を見込む背景を教えてください。米国の医療保険制度に関して、医療機関の経営や設備投資意欲への影響をどう見ているか。

A2：北米では、代理店での在庫調整により前期低調だった AED の需要回復を見込んでいる。需要が高まっている人工呼吸器については新製品の中位機種モデル、アドテック社とのシナジー効果が期待される脳神経機器の拡販に注力する。生体情報モニタもデジタルヘルスソリューション（DHS）を組み合わせた提案を強化する。現時点で、医療機関の経営は改善傾向にあり、設備投資意欲の変化や商談遅延は発生していないことから、北米で高い成長モメンタムを維持したい。関税や医療保険制度など今後の政策動向には注視が必要である。

Q3：2026 年 3 月期の業績見通しに米国の関税政策による影響や対策をどの程度織り込んでいるか。

A3：米国における関税政策による業績影響については、直接的な関税負担として、25 億円程度の売上原価上昇を業績見通しに織り込んでいる。一方、価格転嫁や生産地変更等の対策による効果、医療機関における設備投資意欲への影響は織り込んでいない。関税対策としては、短期的には、競合他社の状況も踏まえながら販売価格の見直しを進めるが、原価上昇の影響を全て補うには至らない見込みである。部品の変更については、設計変更を伴うことから半年以上は時間を要する見込みである。中期的には、米国において生体情報モニタの生産拡大や、米国以外の地域を対象に、日本において人工呼吸器の生産を拡充する。日本から米国への関税率は、90 日間は 10%、90 日以降は 24%の前提で試算している。

Q4：2026 年 3 月期の欧州とアジア州他の売上高について、為替とアドテック社連結の影響を除く実質ベースでも、高い成長を見込む背景を教えてください。

A4：為替とアドテック社連結の影響を除く実質ベースでは、欧州で 1 桁半ばから後半の増収、アジア州他で 2 桁成長を見込んでいる。AED の需要回復、人工呼吸器の需要増加を見込んでいるほか、脳神経機器は、本年 4 月に脳神経事業統括部を新設しアドテック社とのシナジー効果も期待している。

生体情報モニタについては、新製品のミドルローエンドベッドサイドモニタに加え、DHS と組み合わせた提案を強化する。また、前期低調だった中近東・アフリカなど一部の新興国において、市場環境の改善を見込んでいる。

Q5：全社収益改革について、商品ミックス、生産性、サプライチェーンの各領域で、進捗状況を教えてください。

A5：2025 年 3 月期においては、全社収益改革の実行により、想定を上回る 0.8%ポイント程度の改善効果を実現した。商品ミックスでは、国内における医療機関の経営は厳しいものの、販売価格引上げ等の効果が下期から出始めている。2026 年 3 月期も価格政策の見直しを継続し、粗利率の改善を見込んでいる。生産性の向上では、生成 AI ライセンス・アプリケーションの運用を開始し、年間 38 万時間を創出できたと推計している。2026 年 3 月期は、さらなる利用率向上により、人員増の抑制、残業時間の削減の効果が出てくると見ている。サプライチェーンについては、物価の上昇により効果の発現に時間を要しているが、バリューエンジニアリング等による原価低減の効果は一部で出始めている。引き続き、5%ポイント改善の達成に向け、3つの領域における施策展開をさらに加速する。

Q6：Phase II における売上成長率が想定を下回った場合、収益性の改善を追加で取り組む余地はあるか。

A6：収益性の改善には、売上成長による効果も計画に織り込んでいるため、市場環境の悪化等により売上成長が未達となった場合には、目標値に届かないリスクはあると見ている。一方で、全社収益改革の実行による営業利益率 5%ポイントの改善は社内の構造改革が中心であり、売上の変動影響に関わらず実現したい。

Q7：2026 年 3 月期、2027 年 3 月期における人工呼吸器の売上高見通しを教えてください。

A7：2026 年 3 月期における人工呼吸器の売上高は、130 億円程度を見込んでいる。売上構成は国内が約 3 割、海外が約 7 割、国内で 1 桁半ば、海外で 50%に近い売上成長を目指す。北米においては、競合他社の事業撤退もあり需要が高まる中、マスク型人工呼吸器が好調に推移している。また、その他の海外においても、現地販売・サービス体制を強化している。海外では、Phase II において、50%に近い売上 CAGR は達成可能と見ている。

以 上

<ご留意事項>

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたものではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。